

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月13日

【四半期会計期間】 第42期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 先

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部次長 長江 貴史

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部次長 長江 貴史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第41期 第3四半期 連結累計期間	第42期 第3四半期 連結累計期間	第41期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高	(千円)	12,303,744	11,699,301	16,342,314
経常利益	(千円)	100,752	191,533	126,904
親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は親会社株主に帰属する 当期純損失()	(千円)	42,245	38,701	103,306
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	21,672	74,349	131,368
純資産額	(千円)	6,269,309	6,189,088	6,115,636
総資産額	(千円)	14,692,354	14,608,719	15,486,712
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり当期純損失()	(円)	19.76	18.10	48.31
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	42.7	42.4	39.5

回次		第41期 第3四半期 連結会計期間	第42期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純損失()	(円)	10.00	35.55

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第41期第3四半期連結累計期間及び第42期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第41期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は緩やかな回復基調にあるものの、米中通商問題、英国EU離脱問題等による海外経済情勢の不安定性が見られ、依然として先行き不透明な状況にて推移しました。

外食産業におきましては、消費者の根強い節約志向に加え、牛肉等の原材料価格の高止まり、人手不足に伴う人件費の上昇等、コスト増加の傾向が続いており、さらに10月の大型台風等の天候不順が客足に影響を及ぼすこととなり、厳しい経営環境が継続しました。

このような環境の下、当社グループは経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」、「無添加」の商品提供を堅持するとともに、付加価値の高いメニューの開発や既存店舗の改装を推進し、お客様に満足いただける店舗作りに注力してまいりました。また、お客様のニーズの多様化、高度化に対応すべく、食べ放題専門店等新たな業態の開発にも積極的に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高116億99百万円（対前年同期比4.9%減）、営業利益1億92百万円（対前年同期比61.5%増）、経常利益1億91百万円（対前年同期比90.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益38百万円（対前年同期比8.4%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

安楽亭業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は181店舗であります。内訳は直営131店舗、暖簾13店舗、FC37店舗であります。

販売促進につきましては、10月にスマホアプリ（安楽亭アプリ）をリニューアルし、スタンプカードや誕生日クーポン等特典を充実させ、お客様とのつながりを深めるツールとして機能を拡充しました。また、季節のイベントとして、10月に「安楽亭×ハロウィン」、11月に「祝 七五三キャンペーン」、12月に「ヤキニクリスマス」と銘打ってフェアを毎月開催し、お得なクーポンやグッズプレゼント等楽しさを前面に出してアピールし、来店促進を図りました。

また、新商品企画として、安楽亭自慢のタレをクローズアップした「贅沢ダレ焼肉フェア」を開催し、バラエティに富んだ特製の「贅沢ダレ」と焼肉との組み合わせをお楽しみいただくメニューを提供してご好評をいただきました。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は97億2百万円（対前年同期比4.6%減）となり、セグメント利益（営業利益）は5億84百万円（対前年同期比27.2%増）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は29店舗であります。内訳は直営23店舗、暖簾3店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「食べ放題10%OFFクーポン」、「50%増量クーポン」等のお得なクーポン配信にて来店促進を図った他、冬季限定の「もつ鍋フェア」の開催等七輪房の楽しさを伝えるフェアを実施し、LINE配信等によるご案内を展開してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は17億14百万円（対前年同期比6.2%減）となり、セグメント利益（営業利益）は69百万円（対前年同期比19.7%減）となりました。

その他業態

その他業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は10店舗であります。内訳は直営5店舗、FC5店舗であります。なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「花炎亭(焼肉)」、「安楽亭ベトナム(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「アグリコ(イタリアン)」、「カフェビーンズ(喫茶)」及び新業態の「えんらく(焼肉食べ放題)」、「香港式中華バル ネイザンロード(中華)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は2億82百万円(対前年同期比6.9%減)となり、セグメント損失(営業損失)は34百万円(前年同期はセグメント損失7百万円)となりました。

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ8億77百万円減少し、146億8百万円となりました。これは、借入金の返済による現金及び預金の減少、減価償却による有形固定資産の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ9億51百万円減少し、84億19百万円となりました。これは、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ73百万円増加し、61億89百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上、その他有価証券評価差額金の増加等が要因です。

3 【経営上の重要な契約等】

当社は、2019年12月26日開催の取締役会において、株式会社アークミールの全株式を取得し子会社化することを決議し、同日付にて株式会社吉野家ホールディングスと株式譲渡契約を締結いたしました。なお、株式譲渡日は、2020年2月29日を予定しております。詳細につきましては、「第4 経理の状況(追加情報)」をご参照ください。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,139,434	2,139,434	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	2,139,434	2,139,434		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日		2,139,434		3,182,385		147,735

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,125,800	21,258	
単元未満株式	普通株式 12,434		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,139,434		
総株主の議決権		21,258	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式50株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2 - 3 - 5	1,200		1,200	0.06
計		1,200		1,200	0.06

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,955,696	2,287,183
受取手形及び売掛金	421,191	449,338
商品及び製品	127,219	179,704
仕掛品	956	466
原材料及び貯蔵品	601,611	766,829
前払費用	203,354	189,255
その他	53,918	74,752
貸倒引当金	5,098	5,012
流動資産合計	4,358,850	3,942,516
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,697,335	2,739,480
機械装置及び運搬具（純額）	95,480	74,842
工具、器具及び備品（純額）	301,286	322,307
土地	5,003,923	5,003,923
リース資産（純額）	16,213	3,503
建設仮勘定	221,222	36,681
有形固定資産合計	8,335,463	8,180,739
無形固定資産		
のれん	32,011	75,577
その他	129,669	132,737
無形固定資産合計	161,681	208,314
投資その他の資産		
投資有価証券	64,728	60,918
長期貸付金	5,896	10,990
長期前払費用	19,601	23,271
繰延税金資産	153,809	119,406
敷金及び保証金	2,376,896	2,054,575
その他	35,833	33,958
貸倒引当金	26,048	25,972
投資その他の資産合計	2,630,717	2,277,147
固定資産合計	11,127,862	10,666,202
資産合計	15,486,712	14,608,719

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	568,482	647,870
短期借入金	1,060,713	1,065,408
リース債務	15,109	3,204
割賦未払金	186,788	183,664
未払金	185,517	146,401
設備関係未払金	129,826	8,600
未払費用	475,777	465,974
未払法人税等	122,484	48,799
未払消費税等	119,535	89,460
賞与引当金	71,000	41,961
転貸損失引当金	13,297	13,297
その他	567,107	525,574
流動負債合計	3,515,639	3,240,216
固定負債		
長期借入金	4,503,555	3,879,479
リース債務	1,534	
長期割賦未払金	519,189	490,641
繰延税金負債	104,751	104,782
役員退職慰労引当金	368,569	344,237
転貸損失引当金	36,133	26,160
退職給付に係る負債	223,167	223,628
その他	98,534	110,485
固定負債合計	5,855,436	5,179,414
負債合計	9,371,076	8,419,630
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	495,853	534,554
自己株式	6,704	7,601
株主資本合計	6,143,632	6,181,436
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,611	8,474
為替換算調整勘定	384	822
その他の包括利益累計額合計	27,995	7,652
純資産合計	6,115,636	6,189,088
負債純資産合計	15,486,712	14,608,719

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	12,303,744	11,699,301
売上原価	4,494,710	4,263,900
売上総利益	7,809,033	7,435,401
販売費及び一般管理費	7,689,979	7,243,154
営業利益	119,053	192,246
営業外収益		
受取利息	1,260	830
受取配当金	1,881	1,990
受取地代家賃	5,493	4,722
貸倒引当金戻入額	181	161
その他	31,132	23,267
営業外収益合計	39,949	30,973
営業外費用		
支払利息	51,246	26,039
その他	7,003	5,647
営業外費用合計	58,250	31,687
経常利益	100,752	191,533
特別利益		
固定資産売却益	635	15,267
受取保険金	50,185	53,047
受取補償金		25,000
特別利益合計	50,821	93,315
特別損失		
固定資産除却損	7,375	10,785
固定資産圧縮損		50,185
投資有価証券評価損		39,926
賃貸借契約解約損	1,556	8,030
訴訟和解金	3,287	
災害による損失		2,229
特別損失合計	12,219	111,157
税金等調整前四半期純利益	139,354	173,691
法人税、住民税及び事業税	71,442	100,586
法人税等調整額	25,666	34,403
法人税等合計	97,109	134,989
四半期純利益	42,245	38,701
親会社株主に帰属する四半期純利益	42,245	38,701

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	42,245	38,701
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,358	36,085
為替換算調整勘定	214	437
その他の包括利益合計	20,572	35,647
四半期包括利益	21,672	74,349
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,672	74,349

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

当社は、2019年12月26日開催の取締役会において、株式会社アークミール（以下、「アークミール社」という。）の全株式を取得し子会社化することを決議し、同日付にて株式会社吉野家ホールディングスと株式譲渡契約を締結いたしました。

その主な内容は、次のとおりであります。

1. 取得する目的

アークミール社は「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「ステーキハウス フォルクス」、「don イタリアーノ」のブランドにて、ステーキレストラン及びしゃぶしゃぶレストランをメインに158店舗（2019年11月末時点）展開しております。長年に渡り特徴あるレストラブランドを運営しており、国内で高い認知度を有しています。

近年の外食業界において、原材料価格や人件費等のコスト上昇、消費者の根強い節約志向等、厳しい経営環境が続く中、当社は今後も持続的成長を遂げるべく、お客様の多様なニーズにお応えできる店舗作りを進め、経営基盤を強化する方法を模索してまいりました。

この度のアークミール社の子会社化につきましては、当社の主要業態である焼肉と、アークミール社のステーキ、しゃぶしゃぶ業態との間で、食材や店舗オペレーション等共通部分が多く、今後数多くのシナジーを発揮していくことが可能であると考えております。これを機に、当社グループは、より一層の収益基盤拡大・強化を図り、企業価値の更なる向上を目指してまいります。

2. 相手会社の名称

株式会社吉野家ホールディングス

3. 取得する子会社の名称及び事業の内容

(1) 名称

株式会社アークミール

(2) 事業の内容

ステーキ及びしゃぶしゃぶレストラン経営等

4. 取得株式数、取得価額及び取得後の持分比率

(1) 取得株式数

145,526,469株

(2) 取得価額

相手先の意向により開示を差し控えます。ただし、当社の業績及びキャッシュフローに対する影響は極めて軽微な金額にて設定しております。

(3) 取得後の持分比率

100%

5. 取得の時期

2020年2月29日

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	440,589千円	404,445千円
のれんの償却額	10,211千円	17,103千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	10,173,896	1,826,901	302,946	12,303,744	12,303,744		12,303,744
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	10,173,896	1,826,901	302,946	12,303,744	12,303,744		12,303,744
セグメント利益又は 損失()	459,237	86,830	7,091	538,975	538,975	419,921	119,053

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	9,702,850	1,714,384	282,065	11,699,301	11,699,301		11,699,301
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	9,702,850	1,714,384	282,065	11,699,301	11,699,301		11,699,301
セグメント利益又は 損失()	584,269	69,767	34,980	619,056	619,056	426,809	192,246

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、(株)FSDから2店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては60,668千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	19円76銭	18円10銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	42,245	38,701
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	42,245	38,701
普通株式の期中平均株式数(株)	2,138,433	2,138,215

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月12日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小笠原 直 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 入澤 雄太 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

「注記事項(追加情報)」に記載されているとおり、会社は、2019年12月26日開催の取締役会において、株式会社アークミールの全株式を取得することを決議し、同日付けで株式会社吉野家ホールディングスと株式譲渡契約を締結している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。